

薬には病気を治したり、症状をやわらげたりする効果がある一方、副作用があらわれることがあります。医師に指示された用法・用量にしたがって使用してください。体調が良くなったと自分で判断し、使用することをやめたり、量を加減したりすると、病気が悪化することがあります。薬のことでわからないこと、心配なことなどがありましたら、医師や薬剤師に相談してください。

カルベジロール錠 1.25mg 「DSEP」、カルベジロール錠 2.5mg 「DSEP」、
カルベジロール錠 10mg 「DSEP」、カルベジロール錠 20mg 「DSEP」

一般名： カルベジロール（和名） （Carvedilol（英名））	販売名	カルベジロール錠 1.25mg 「DSEP」	カルベジロール錠 2.5mg 「DSEP」	カルベジロール錠 10mg 「DSEP」
	形状（製 剤写真 等）			

※カルベジロール錠 20mg 「DSEP」の写真は省略しています

1.どんな薬

- この薬は β 受容体 遮断作用による心臓の過剰な働きを抑える作用と α_1 受容体 遮断作用による血管拡張作用により、血圧を下げたり、心臓の機能を改善したりします。[β 遮断剤]

2.この薬を使用できない人、特に注意して使用する必要がある人

- ⊖ 次の人はこの薬を使用できません。必ず医師や薬剤師に相談してください。
気管支喘息・気管支痙攣のおそれのある人、糖尿病性ケトアシドーシス・代謝性アシドーシスの人、高度に脈の遅い人・房室ブロック(Ⅱ、Ⅲ度)・洞房ブロックの人、心原性ショックの人、強心薬または血管拡張薬を静脈内に注射する必要のある心不全の人、非代償性の心不全の人、肺高血圧による右心不全の人、治療していない褐色細胞腫またはパラガングリオーマの人、過去にカルベジロール錠「DSEP」に含まれる成分で過敏症のあった人
- 次の人は特に注意が必要です。使い始める前に医師や薬剤師に相談してください。
特発性低血糖症・コントロール不十分な糖尿病・絶食状態・栄養状態が不良の人、糖尿病を合併した慢性心不全の人、心不全を合併した頻脈性心房細動の人、房室ブロック(Ⅰ度)の人、徐脈の人、末梢循環障害のある人(レイノー症候群、間欠性跛行症など)、過度に血圧の低い人、褐色細胞腫またはパラガングリオーマの人、甲状腺中毒症の人、腎臓に重い障害のある人、肝臓に重い障害のある人、授乳中の人、妊婦または妊娠している可能性がある人
- この薬には一緒に使用する場合に注意が必要な薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師や薬剤師に相談してください。

3.この薬を使うにあたり注意すべき副作用・注意すべきこと

- 狭心症などの虚血性心疾患の人が使用を急に中止した場合、狭心症発作が頻発したり、症状が悪化したり、心筋梗塞を起こしたり、急に血圧が上昇する可能性があります。高齢の人においても同様の注意が必要です。医師に相談しないでこの薬を減量したり、やめたりしないでください。
- 自動車運転等：めまい、ふらつきが起こることがあるので、この薬の使用（特にこの薬を飲み始めたとき）に自動車の運転などの危険を伴う操作を行わないでください。
- 重い心不全の子どもでは、重い低血糖症状があらわれることがありますので注意が必要です。
- 重い心不全の高齢の人では、副作用があらわれやすいため注意が必要です。

4.ほかに知られている副作用

比較的好くみられる副作用の一例は以下のとおりです。これら以外の副作用もあらわれることがあります。これらの症状や、普段と異なる症状に気づいたら、医師や薬剤師に相談してください。

〈高血圧症、狭心症、頻脈性心房細動に使用する場合〉

主な症状	考えられる副作用
体がふわふわと浮いているような感じがする、ふらつき、頭がグルグルと回っている感じがする	めまい
体が重くて動きたくない感じがする	倦怠感
眠い	眠気

〈虚血性心疾患または慢性心不全に使用する場合〉

主な症状	考えられる副作用
体がふわふわと浮いているような感じがする、ふらつき、頭がグルグルと回っている感じがする	めまい
息がしにくいと感じる、息がハアハアして苦しくなる、疲れやすい、むくみ、体重が増える	心不全
ドキドキする	動悸

5. 保管方法

直射日光と湿気をさけて室温（1～30℃）で保管してください。

6. 問い合わせ先

症状、使用方法、副作用などについて不明な点がある場合は、医師や薬剤師におたずねください。

この製品に対する一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売業者：第一三共エスファ株式会社（<https://www.daiichisankyo-ep.co.jp/>）

電話：お客様相談室 0120-100-601、受付時間：9:00～17:30（土、日、祝日、当社休日を除く）

※医薬品副作用被害救済制度：お薬は正しく使っていても、副作用が起こることがあります。もしも副作用で重い健康被害が生じた場合に、医療費や年金などの給付が受けられる公的な制度です。

制度の詳細はこちらをご覧ください。

https://www.pmda.go.jp/kenkouhigai_camp/index.html

なお、抗がん剤、免疫抑制剤や抗ウイルス薬などにはこの制度の対象にならないものがあります。対象外となる医薬品はこちらから検索いただけます。

<https://www.pmda.go.jp/relief-services/adr-sufferers/0022.html>